研究課題名	PEEP test による血圧変化量の血圧反応性予測指標としての有用性
研究の意義・目的	心臓の手術を受ける患者さんの血圧は、手術中に低下することがあります。血圧が低い状態が続くと、脳や腎臓などの重要な臓器への血流が十分に保たれなくなる可能性があるため、適切に血圧を維持することが重要です。血圧が低下した場合には、輸液（点滴）や昇圧薬（血圧を上げる薬）などを用いて治療しますが、必要以上の輸液は肺や組織に水分がたまる原因となるため、患者さんの状態に応じて適切な治療を選択する必要があります。 輸液が必要かどうかを判断するためには、輸液によって心臓から送り出される血液の量が増えるかどうかを予測する方法がいくつか用いられています。一方で、輸液によって心臓から送り出される血液の量が増えても、必ずしも血圧が上昇するとは限りません。そのため、輸液などによって心臓に戻る血液量を増やしたときに、実際に血圧が上昇するかをあらかじめ予測することも重要ですが、そのための簡便で信頼性の高い方法は十分に確立されていません。 人工呼吸中には、肺を広げておくために PEEP（呼気の終わりに肺にかける圧力）という圧力をかけています。この PEEP を一時的に変化させると、心臓に戻る血液の量が変化し、それに伴って血圧も変化します。本研究では、以前に心臓血管外科手術を受けた患者さんを対象として実施した研究で得られたデータを用いて、PEEP を変化させた際の血圧の変化から、心臓に戻る血液量が増えたときに血圧が上昇するかを予測できるかを調べます。この研究により、血圧の上昇を簡便に予測できるようになれば、輸液や昇圧薬をより適切に選択できるようになり、今後の手術中の循環管理の改善に役立つことが期待されます。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～　2030 年１２月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2025 年 4 月～8 月に大阪公立大学医学部附属病院において心臓血管外科手術を受け、先行研究「PEEP test による一回拍出量変化量の輸液反応性指標としての有用性：心臓血管外科症例での検討」（承認番号：2024-187）に参加された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	先行研究で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ・基本情報：年齢、性別、手術術式、術前合併症 ・身体所見：身長、体重、血圧、脈拍数 ・血液検査：ヘモグロビン値、クレアチニン値、AST、ALT ・呼吸機能検査：肺活量、1 秒量 ・全身麻酔中血行動態指標：血圧、心拍数、一回拍出量、一回拍出量変動、脈圧変動
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科麻酔科学のみで行います。 【研究責任者】末廣　浩一
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。こ

	のような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院　麻酔科 担当者氏名：末廣　浩一 電話番号：０６―６６４５―２１８６